

防災・減災教育（いさはや防災・減災プログラム）報告書

1 青少年教育に関するモデル的事業

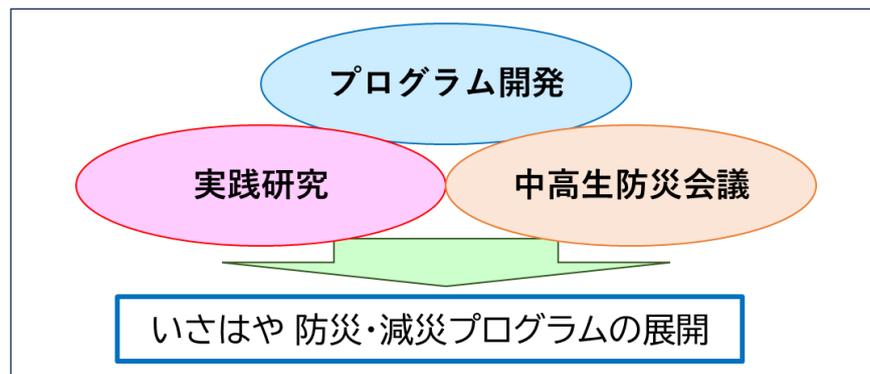
ア 実践研究事業

イ 地域の実情を踏まえた特色あるプログラム事業（特色化事業）

1)趣旨

第4期中期目標期間（令和3～7年度）における「特色あるプログラムの開発」「実践研究事業」は、災害時に主体的に物事を判断し行動する力や互いに協力して生き抜こうとする態度を育み、防災・減災について自主的に学び考え続ける青少年を育成することを共通の目的として、取り組んできた事業です。

また、「全国中学生・高校生防災会議」を長崎県で開催することで、防災・減災に関する中学生・高校生の防災意識と社会参画意識向上の機運を高めることを目指しました。



2)令和3年から6年度までの取組概要

①特色あるプログラムの開発及び実践研究

令和3年度

○プチサバイブキャンプ

〔期日・参加者〕 令和3年11月6日（土）～7日（日）1泊2日

児童・生徒 24名

〔概要〕「避難所の設営」「食料配給」「水の確保」「火おこし」



令和4年度

○ハイパーレスキューチームスタートアップキャンプ

〔期日・参加者〕 令和4年9月17日（土）

児童 16名

〔概要〕「火災発生時の対応」「ケガ人への対応」



令和5年度

○自然の家ハイパーレスキューチームキャンプ

〔期日・参加者〕 令和5年11月3日（金）～5日（日）2泊3日

児童 23名

〔概要〕「防災クイズラリー」「ロープワーク」「避難所体験」「防災食」等



○「いさはや防災教育プログラム」の開発

- ・ 8つの選択プログラムを設定

令和6年度

○AR防災クイズラリーを開発、「いさはや防災教育プログラム」に加える（別紙参照）

- ・ 研究協力者 関西学院大学 甲斐知彦 教授

○諫早市立諫早小学校宿泊体験学習

〔期日・参加者〕 令和6年10月22日（火）～23日（水）1泊2日
児童 81名

〔概要〕「パッキングクッキング」「防災バッグづくり」「応急手当訓練」等

○日高アウトドアフォーラムでの発表

〔期日〕 令和5年11月15日（金）～17日（日）

○報告書（リーフレット）「いさはや防災プログラム」作成・公表

- ・ 特色化プログラム・実践研究の成果と課題、検証と今後の方向性を提示



②中学生・高校生防災会議

令和5年度

○長崎県中学生・高校生防災会議

〔期日・参加者〕 令和5年12月9日（土）
中学生・高校生 36名、教員3名

〔概要〕 講義「東日本大震災における福島は今」「災害と向き合う中高生たち」
協議「わたしたちにできること」



令和6年度

○全国中学生・高校生防災会議「全国防災ジュニアリーダー育成合宿」

〔期日・参加者〕 事前オンライン 令和6年12月7日（土）
合宿 令和6年12月20日（金）～22日（日）2泊3日
事後オンライン 令和7年2月26日（水）
98名（生徒57名、教員27名、その他14名）

〔概要〕 講義「DMA Tの活動」「屋外フィールドワーク」
「パネルディスカッション」
「アクションプラン作成・発表」



3)令和7年度「いさはや防災教育プログラム」の展開

①長崎精道小学校 2nd ステージ 宿泊体験学習

〔期日〕

・ 令和7年9月8日（月）～9日（火）1泊2日

〔活動場所〕

・ 国立諫早青少年自然の家（環境学習館、OR室、2階ロビーなど）

〔参加者〕

・ 47名（小学校5年生～中学校1年生）

〔担当職員〕

・ 中里文彦 他、長崎精道小学校職員8名



〔プログラムの概要〕

- ・「防災バックづくり」「ロープワーク」「防災ARクイズラリー」「パッキング（カレー）」

〔成果と課題〕

- ・児童生徒が体験する前に、先生方が実際に体験し、一緒に準備していくことで、学校と自然の家で協力して取り組む体制ができたことが収穫でした。
- ・児童生徒や先生方からの実施後提示された改善意見やアンケートの結果をもとに、プログラムのブラッシュアップを図ることができました。11月実施の他校の取り組みに向けた準備ともなりました。
- ・「パッキング（カレー）」では、湯煎でカレー作りに取り組みましたが、野外炊事の材料に生肉を使用していたため、衛生面が心配されました。次年度から魚肉ソーセージを使用することにしました。

②諫早市立諫早小学校 宿泊体験学習

〔期日〕

- ・令和7年11月6日（木）～7（金）1泊2日

〔活動場所〕

- ・国立諫早青少年自然の家（野外炊事棟、プレイホール、学習室1）

〔参加者〕

- ・63名（小学校5年生）

〔担当職員〕

- ・日高祐樹 他、諫早小学校職員6名

〔プログラムの概要〕

- ・「パッキング（カレー）」「ロープワーク」「防災バックづくり」

〔成果と課題〕

- ・「防災バックづくり」では、避難の際に必要となりそうなものを選んだり、リュックに詰めたり、実際にどれくらい運べるかを体験することで、子どもたちの理解がすすんだようです。
- ・「ロープワーク」では、基本の結び方を確認した後、ゲーム形式で取り組んだら、子どもたちが興味・関心をもって取り組む姿が印象的でした。



③諫早市立長田小学校 出前講座

〔期日〕

- ・令和7年11月19日（水）

〔活動場所〕

- ・諫早市立長田小学校（音楽室・体育館）

〔参加者〕

- ・80名（小学校3年生40名、小学校4年生40名）

〔担当職員〕

- ・高山雄也 他、長田小学校職員

〔プログラムの概要〕

- ・「防災バックづくり（3年生）」「防災ARクイズラリー（4年生）」

〔成果と課題〕



- ・多くの子どもたちが積極的に取り組み、校長先生から次年度の継続的な実施と1～6年生までの学年別のプログラム実施の提案があり、所内で検討を始めました。
- ・「防災バックづくり」では、現在の実施内容は、小学5年生以上が適齢年齢だと分かったので、今後、4年生以下でも学べる内容などを検討、準備していきます。
- ・「防災ARクイズラリー」では、複数回実施する中で、①幼児～4年生と②5年生以上の2つの実態に分け、発達段階に応じた提供をすることが大切だと分かり、現在ブラッシュアップを進めています。

④「わくわく体験フェスタ」ブース出展

〔期日〕

- ・令和8年2月14日（土）、15日（日）各日帰り

〔活動場所〕

- ・イオンモール橿原（Noniwa コート）

〔参加者〕

- ・302名

〔担当職員〕

- ・中里文彦、日高祐樹

〔プログラムの概要〕

- ・「防災ARクイズラリー」

〔成果と課題〕

- ・家族層になじみのあるイオンモールを会場に「防災ラリー」を行ったことで、普段あまり防災に関心のない方々にも体験してもらうことができました。
- ・参加者の方からは、「楽しかった」という声に加え、「防災について学べた」「家に帰ったら避難経路を確認したい」といった声も聞かれました。
- ・ブース出展では参加者の多くが幼稚園・保育園生～小学校低学年までの子どもたちだったため、発達段階を考慮したアプリケーションに修正していく必要があることが分かりました。



予測できない自然災害に備えるために。
未来を生きる子どもたちへ、“命を守る学び”を届けます。

いさはや防災教育プログラム活動一覧



【活動】
防災ARクイズラリー **1**

【内容】
タブレットを使ってクイズを解きながら、防災減災に関する正しい知識や行動を学ぼう。



【活動】
災害時に役立つ
ロープワーク **2**

【内容】
ロープの様々な活用方法を学ぼう。



【活動】
あなたの防災
バックの中身は？ **3**

【内容】
防災バックに入れるものを自分たちなりに考えよう。



【活動】
防災野外炊事
(バッククッキング) **4**

【内容】
被災時にも、少ない水と火で調理できることを体験しよう。



【活動】
防災食体験 **5**

【内容】
防災食を実際に食べることで、平常時との違いや食の大切さを理解しよう。



【活動】
応急手当訓練 **6**

【内容】
災害時に怪我をした時の手当について理解し、処置ができるようになるよう。



【活動】
消火訓練
(水消火器) **7**

【内容】
地震の影響による火災発生時に、初期消火ができる技術を身に付けよう。



【活動】
避難所体験 **8**

【内容】
電気、水道、ガスが使用できない状況で宿泊してみよう。